

J I P 台湾

國立屏東商業技術學院

濤崎理絵
岩倉若菜
菊地佳菜江
平田真知子

実習場所：台湾南部の屏東北西部にある『国立屏東商業技術学院』

実習期間：2月20日～3月16日

担当学年：応用日本語学科1年生

教科書：『みんなの日本語（大家的日語）』

副教材『みんなの日本語初級標準問題』『みんなの日本語初級聴解タスク25』

実習時間：校内の見学 50分×56コマ（内10コマは他学年他学部の日語授業）

校外の見学 50分×11コマ

（千葉幼稚園、屏東女中、空中大学、竹田駅池上文庫、二峰ダム）

実習 50分×6コマ（日語×2コマ 会話×4コマ）

フィードバック式・オリエンテーション 50分×2コマずつ

サバイバル中国語 50分×6コマ（希望者のみ）

費用	： 関空⇄台北 Jet star	31,000 円
	新幹線（高鉄）台北⇄新左営往復	約 6,000 円
	生活費（食費・旅行費など）	約 30,000 円
	通学費	0 円
	宿泊費 女子（大学内の女子寮）	0 円
	合計	約 67,000 円

実習大学

実習先は、台湾の南部にある屏東市の国立屏東商業技術學院です。

そこで私たちは主に、応用日本語学科の1年生（約60名）の授業を見学・実習しました。

1年生が使う教科書は『みんなの日本語』の4冊です（台湾での『みんなの日本語』は日本で売られている『みんなの日本語』と少し違う）。

実習先では、ティームティーチングという授業方法をとっており、文型導入と練習 A→会話 BとC→読解→作文という流れで教えていました。

授業見学は主に1年生でしたが、希望すれば2年生から4年生までの授業見学が可能です。

1年生から4年生までの授業の内容は全然違うので、見学をすることをお勧めします。



（上2枚：歓迎会&歓送会の集合写真 左下：学生と旅行 右下：空中大学見学時の写真）



授業について

3名の先生方でチームを組んで行うティームティーチングを取り入れており、文型導入・会話・聴解・発音の4つの科目に分けて、授業が行われています。1クラス約60人で、文型導入・聴解・発音は全員で、会話の授業は半分の人数に分けて行っていました。聴解・発音の授業は文型導入・会話の授業より4コマ遅れて行っていました。(例えば、今週、文型導入・会話が23、24課であれば、聴解・発音は、21、22課をする。)また、2課に1回復習があり、あまり定着していないところを重点的に復習が行われていました。

<文型導入>

週4コマ(1回2コマ 授業100分+休憩10分)

文型導入や文型・単語の説明を主とした授業で、主に中国語を使用して授業を行っていました。だいたいの授業の流れとしては、毎回授業の最初に単語テストを行い、文法説明に入り、ラスト5~10分で次の課の単語確認を行っていました。

<会話>

週4コマ(1回2コマ 授業100分+休憩10分)

文型の定着・文字に頼らず耳と口で会話練習を主とした授業で、日本語・中国語の両方を使用して授業を行っていました。だいたいの流れとしては、単語の意味や短文カードの小テスト(口頭で)を行い、教科書の“会話”“練習B”の部分を使用した授業を行っていました。グループでの練習も多く行われており、会話の授業ということもあり、学生達が日本語を使用する機会が多かったです。

<聴解>

週2コマ(1回2コマ 授業100分+休憩10分)

更に文型の定着を図ること、キーワードを聞きとることを主とした授業で、主に日本語を使用して授業を行っていました。だいたいの流れとしては、聴き取り問題を行い、ペアワークを行い、小テスト(日本語を聴き取り書く、その後、中国語に翻訳)といった内容でした。

<発音>

週2コマ(1回2コマ 授業100分+休憩10分)

アクセントや流暢さなどの指導と共に、読解や文法説明、翻訳も行う授業で、日本語・中国語共に使用されていました。「みんなの日本語初級～読本編～」というプリントを使用して、文法説明やアクセントの注意説明、シャドーイングを2~3回し、ペアで朗読練習を行うといった授業内容でした。発表する学生が、プリントを読み、気をつけた方がいいアクセントや意味が分からないと思われる単語などを各自探し調べ、翻訳し発表するといった内容もありました。



実習内容

私たちが、実際に教壇に立って実習したのは、文型導入のクラスと会話のクラスの2クラスです。そこで、「みんなの日本語第25課」を担当させていただきました。約100分(50分×2コマ)の授業を4人で行うということだったので、一人の持ち時間は約15分でした。準備段階では、何度も先生方とメールなどで打ち合わせを行いました。指導案は、早めに作成し、先生方にお見せすることをお勧めします。今回、私たちは、1課のみの実習でしたが、希望すれば、もっと実習をさせていただきます。

文型の導入クラスでは文型の定着を、会話のクラスでは会話練習を中心とし、さらに文型が定着するよう、学生が日本語のみの授業でも理解できるよう心がけ、そして声の大きさや、学生への返答(すぐに返事をする、褒める、など)に対しても注意しながら、授業を行いました。

内容としては、文型導入では“たら”導入→展開→“ても”導入→展開、会話の授業では、“たら”の言い換え(グループワーク)→“ても”の言い換え(グループワーク)→“たら”の短文作成(ペアワーク)→“ても”“たら”の短文作成(ペアワーク)という流れで授業を行いました。前後の流れをきちんとさせ、各自、絵や自作プリントを使用して授業を進めていきました。実習の反省点としては、指示の明確さに欠けていたこと、導入の授業の時に練習をもっと多く取り入れた方がよかったことなどがあげられます。反省点をあげたら、きりがありませんが、声の大きさや、学生への返答は自分の中ではできたのではないかと思います。



台湾での生活

1. 学生宿舎

女子寮は学内にあります。今回私たちは日本人1人と台湾人3人の4人部屋で1ヶ月間過ごしました。応用日本語学科の学生が、だいたい部屋に1人はいました。日本語が全然わからない学生も同じ部屋だったのですが、簡単な英語でコミュニケーションをとったりすることで、より寮での生活をたのしむことができました。寮に住んでいる学生も多いので、私たちの部屋に勉強しに來たり、遊びに來たりする学生もいました。第一女子寮の地下では、パソコンを利用したり、テレビを見たり、運動する機械があつたりします。ただ、消灯時間までしか使えないので、ノートパソコンを持っていけば、コンセントの形が日本と同じなので、変換プラグを使わず、部屋でインターネットを利用できるので何かと便利です。洗濯は1回20元。ベランダに洗濯ものを干すスペースがあります。ハンガーや洗剤は、大学内の購買や大学近くの店で購入することができるので、台湾で買っても良いのではないかと思います。また、共同で使っているという部屋もありましたが、たいていの部屋は、寮にトイレットペーパーやティッシュがありません。ティッシュがないと、買いに行けるまで何かと困るので、最初にひと箱持っていっておいた方が、良いかと思います。また、蚊がたくさんいたので、蚊に刺されやすい人は薬を持っていくなど、対策した方がよいと思います。調理器具はありませんが、水とお湯が出る給湯器があるので、ラーメンを作ったりはできます。基本的に、食事は買ってくるか外食です。

分かりづらいですが、女子寮の写真です→
上がベッド、下が机になっています。



2. 学生との交流

私たちは、主に 1 年生の担当でした。私たちが台湾に行った時は『みんなの日本語』20 課まで授業で習っていました。ほとんど皆、明るくてとても元気で、知っている言葉や文型を使って一生懸命話してくれますし、「日本語で説明して！」と頼むと、がんばって日本語で説明してくれます。積極的に話しかけてくる学生が多かったです。最初はお互い緊張していますが、きっかけを作ればたくさん関わってくれる学生ばかりでした。

休日の予定はあっという間に埋まります。1 年生と 2 年生の学生を中心にいろいろな所に案内してもらいました。しっかりと計画を立ててくれていたので、とても楽しく観光できました。食事にもたくさん誘われました。また、応用日本語学科の学生主催の歓送迎会も開いてもらいました。

3. 食事面

大学内の購買や食堂、大学の前にはセブンイレブン、大学近辺にはマクドナルドやパン屋やたくさんの飲食店があるので食べ物には困りません。値段も安い（80～150 円の間）ので、食費はそんなにかかりませんでした。おいしいものがたくさんあるので、食べすぎには気をつけてください。また、飲食店で出るお茶は基本的に甘いです。甘いのがあまり得意でない人は、水やお茶などを持ち歩くことをお勧めします。ちなみに、買い物をして、たいてい袋がもらえないので、エコバックなどを持って行っておくと良いのではないかと思います。

4. 衛生面

寮のところでも記載しましたが、トイレットペーパーを置いていないところが多いので、ティッシュは常に持参しておいた方がいいです。大学の購買でも買えますし、校外の近くの店でも買えます。また、ティッシュは流さず、備え付けのごみ箱に捨てる場所がほとんどでした。飲食店では、おしぼりは出ないので、気になる方は除菌ティッシュなどを持参したらいいと思います。部屋にハンドソープ、ボディソープ、シャンプーなどがなかったので、必要なものは持参、または現地で購入してください。

また、大学内に数匹、大学外でもいたるところに放し飼いの犬がいますが、噛みついたり吠えたりはしません。

5. 交通面

バイクがとても多いです。急な車線変更などもあるので、バイクや車には気をつけてください。

休日に出かけるときは、大学から駅まではバス、駅からはだいたい電車や地下鉄を使います。帰りはタクシーが多かったです。船も 1 回乗りました。交通機関を利用するときは、小銭を使う機会がたくさんあります。特に、バスは両替機がついていないのに、細かいお

金が必要なことがほとんどです。日ごろから小銭をたくさん作っておけば、便利なので用意しておいた方がいいと思います。交通機関、特にバスや電車や地下鉄や船は、日本人からみるとびっくりするくらい安いので、休日はあちこち行って見た方が絶対良いと思います。また、今回気づいたら、大学から駅までのバスの料金が変わっていたということがあったので、利用する際は一応値段を確認しておいた方がいいと思います。

6. 気候

薄い長そで 1 枚でも十分でした。薄めの上着も持っていけば良いと思います。暑い日は半袖でも良いくらいでした。日差しが強い日がありました。帽子か日傘があれば便利です。日焼け止めも持参した方が良いでしょう。

7. 観光

高雄：屏東から高雄までは、電車で 30 分程度の距離にあります。ナイトマーケット（夜市）が有名らしく、夜には屋台がたくさん立ち並びとても賑わっていました。そのほかにも、服や雑貨などがたくさん売られているので、買い物も楽しめます。何度か行きましたが、地下鉄も発達していて、便利でした。動物園に行ったり、美術館に行ったりするなど、楽しめる場所がたくさんあります。

台南：有名な観光地のように、とてもたくさんの方がいました。スペイン・オランダ統治時代の歴史的建造物や、ツリーハウスや、塩の博物館など、様々な観光スポットがあります。たくさん屋台が並んでいる場所には、2 度行ったのですが、1 度来たことがあるのに、2 度来てみるとまた違う発見があったりするので、とても楽しかったです。

その他：屏東にある原住民の建物や遊び体験ができるような施設へ行きました。ショーがあったり、コマ体験やブランコの体験があったりと 1 日楽しむことができました。

↓台南の観光地



↓高雄で乗ったフェリー



原住民村にて→



感想

・台湾に行く前、向こうで使う言葉を全く知らないのに、ちゃんと生活できるのか本当に不安でしたが、たくさんの人にお世話になりながら、充実した1ヶ月を過ごすことができました。大学内の学生はもちろん、大学外で日本語を勉強している様々な年代の人と交流できたことはとても良い経験になりました。また、大学での授業の見学は、日本語教育現場を実際に見たことがない私にとって、とても新鮮なものであり、先生方と学生たちの仲の良さにはとても驚きました。実習の内容も豊富で、1ヶ月という短い期間でしたが、とても多くの体験をさせていただきました。このような充実したプランを考えてくださった先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

また、応用日本語学科の学生ではない、他の専攻の学生もたくさん話しかけてくれ、とてもうれしかったです。台湾で本当にたくさんの人と交流することができ、研修に行く前に想像していた以上の体験ができました。本当にありがとうございました。(平田真知子)

・私は中国語が分からないので、向こうに行っても絶対に台湾の人たちに遠巻きにされると思っていました。しかし、実際に行ってみるとどこに行っても歓迎されてびっくりしました。何か困っていることがあるとすぐに、台湾の人たちが助けてくれました。台湾の人たちはとても親切な人たちばかりでした。私たちの授業でも、日本語ばかりで分かりにくいだろうに、必死で理解しようとする姿勢がとてもうれしかったです。(菊地佳菜江)

・最初は、知識が少ない私でも大丈夫だろうかという不安もありましたが、周りの先生方のサポートもあり、無事実習を終えることができました。この1か月は、授業見学や実習以外にも、学生との交流や校外での見学など内容も豊富でとても充実しており、とても素晴らしい1か月を送ることができました。個人的には、作文添削やサークルの見学もさせていただき、他学部の学生との交流も楽しみました。また、学生たちと積極的にコミュニケーションを取っていく中で、台湾の学生がどういうことに興味を持ち、日本に対してどういった考えを持っているかなども知ることができましたし、彼らと多く話をする中で、私自身、とても勉強になりました。このような素晴らしい機会を与えていただいたこと、そして台湾でお世話になった全ての方たちに感謝の気持ちでいっぱいです。(濤崎理絵)



(週末、学生達と一緒にいった旅行の時の写真)